

国際先導研究 審査結果の所見

| | |
|-----------|--|
| 課 題 番 号 | 23K20042 |
| 研 究 課 題 名 | NLR 生物学の基礎的理解による作物耐病性増強 |
| 研 究 代 表 者 | 寺内 良平 |
| 審査結果の所見 | <p>【学術的意義、期待される成果】</p> <p>本研究課題は、イネ・コムギ・ウリ類など、未開拓かつ病原体による被害の大きい重要な作物種を対象に、植物病害に対するテーマ1. NLR ペアーとネットワークの探索、2. NLR 活性化機構の解明、3. NLR 認識機構の解明、4. NLR エンジニアリングの四つのテーマに係る日英間の国際共同研究を実施するものである。本研究から創出される科学的知見は、農薬に多くを頼らず植物自身が持つ病害抵抗性遺伝子を活用した抵抗性品種の創出に資するものであり、人類にとっての食の安全や安定確保に寄与する重要な学術的・社会的意義を有する。とりわけ、テーマ2及びテーマ3については、本研究の中核をなす発展性・水平展開力のある基礎研究と考えられる。植物免疫メカニズムに係る海外の先行研究を強力に追隨・凌駕しつつ、予想外の発見を含めた独自性・独創性の高い世界トップクラスの研究成果の創出が期待できる。</p> <p>若手研究者の人材育成については、英国における世界的にも卓越した研究者のラボに、各所属研究機関の博士課程学生やポスドクを短期間（3～6か月）あるいは長期間（1～2か年）にわたり派遣する計画が提案されている。本研究を通じて、日英両グループによるメンタリングやトレーニングを効果的に実施し、これまで以上にインターラクティブな学術交流及び共同研究を展開することで、当該分野の次代を担う優れた若手研究者の育成が期待できる。</p> |